

令和3年度（2020年度）第3回つくば市行政経営懇談会

日時：令和2年（2020年）12月18日（金）

14時00分から15時30分まで

会場：つくば市役所2階 会議室201

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）つくば市が目指すべき市民参加について

3 その他

（1）令和2年度（2020年度）行政経営懇談会で扱う案件について

（2）第4回以降の懇談会開催スケジュールについて

4 閉会

【配布資料】

- | | |
|---------|----------------------------------|
| ・資料 1 | つくば市が目指すべき市民参加について |
| ・参考資料 1 | 令和2年度（2020年度）第2回つくば市行政経営懇談会会議録 |
| ・参考資料 2 | 令和2年度（2020年度）第2回つくば市行政経営懇談会会議録要旨 |
| ・参考資料 3 | 令和元年度（2019年度）パブリックコメント主な意見への回答 |
| ・参考資料 4 | 無作為抽出による委員等候補者名簿登録依頼関係書類 |
| ・参考資料 5 | 市民委員の任命又は選任に無作為抽出を活用している主な自治体 |
| ・参考資料 6 | 地区別市民委員応募状況 |

つくば市が目指すべき市民参加について

I つくば市の市民参加の現状

- ・20歳代から40歳代までの人口が多い。(令和2年4月1日つくば市年齢別人口統計)
- ・「市政に市民の声がいかされていると思う」の回答割合が前回調査から増加している。(「令和元年つくば市民意識調査」)
- ・20歳代から40歳代までの「市に伝えたい意見がない」の回答割合が高い。(「令和元年つくば市民意識調査」)
- ・20歳代から40歳代までの「市政に市民の声がいかされていないかわからない」の回答割合が高い。(「令和元年つくば市民意識調査」)

II 市民参加の基本的な考え方

つくば市が目指すべき市民参加とは、「つくば市市民参加推進に関する指針」に記載した、市民参加推進に関する基本的な考え方の3点に沿って十分に取組みが進められている状態であり、その実現のために、市は「つくば市市民参加推進に関する指針」の別表「市民参加の主な実施手法」に掲げる手法に捉われずに試行的な取組を実施していく必要がある。

また、既存の手法についても事業の分野や性質・内容等に応じて柔軟に取組む必要がある。

【図1】

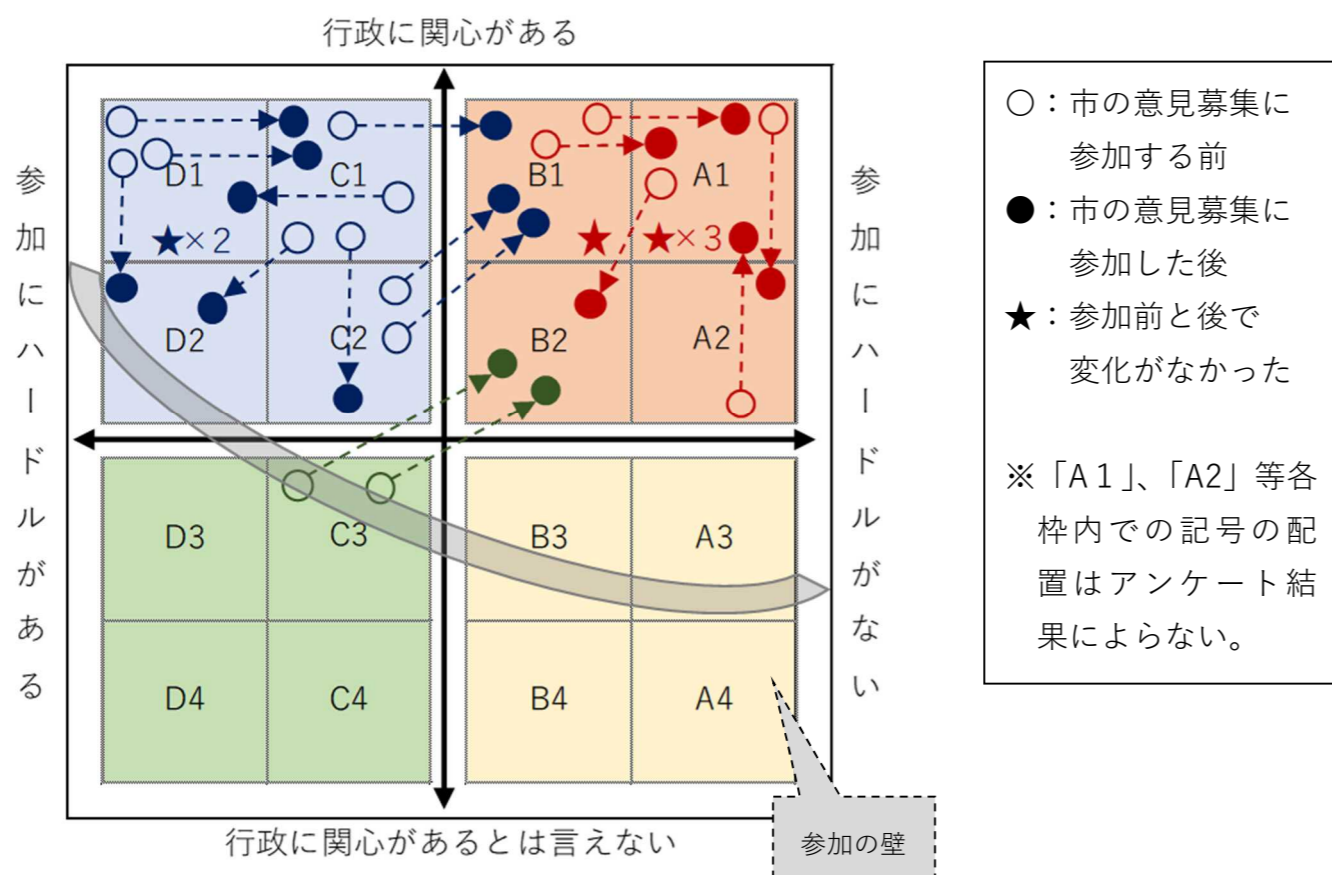


図1は令和2年(2020年)11月実施の「市民参加に関するアンケート」の実施結果から作成。アンケートの対象者は企画経営課が所管する審議会等やワークショップ、市民委員意見交換会への参加経験を持つ市民であり、参加前から行政に高い関心を持っている人が多い。

一方で、参加前はどちらかという行政に関心を持っていなかったが、参加したことで行政への関心が高くなったと回答した人もいます。

つくば市が目指すべき市民参加のためには、行政に関心があるとは言えない層や、参加にハードルを感じている層に向けた取組を進める必要がある。

十分に取組まれている状態	
(1) 情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報が、必要な時に確実に届くように発信されている。 ・市民は、情報をできるだけ簡易に得ることができる。 ・市民が興味関心を持ちやすい仕掛けやテーマを取入れたイベントや情報発信が行われている。
(2) 参加しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り参加を希望する市民が参加しやすい環境づくりが心がけられている。 ・事業の分野や性質・内容に応じて、市民が参加しやすい方法が検討されている。 ・できるだけ簡易に意見を表明できる方法が導入されている。
(3) 市民委員の積極的な反映	<ul style="list-style-type: none"> ・前例や既存の枠組みにとらわれることなく、柔軟な発想で市民の意見に向き合っている。 ・自らの意見を積極的に表明できない市民の声なき声も積極的に汲み上げ、反映するよう努められている。 ・地区相談業務が充実している。 ・市民の意見等を事業に反映できなかった場合は、反映できなかった理由とともに、丁寧にフィードバックがされている。

III つくば市市民参加推進に関する取組の課題への対応

今年度検討する3つの課題について、第2回つくば市行政経営懇談会において委員から挙げられた意見等を以下のとおり市民参加の推進に関する基本的な考え方の3項目に振り分けた。

1. 無作為抽出による委員等候補者名簿の活用について

無作為抽出には、参加者の固定化を避け、これまで市と接点の少なかった人の参加につながるという利点があり、市で審議会等の委員に有識者や学識経験者等以外の市民を任命等する際は、公募による選考または、委員等候補者名簿の登録者への就任依頼を行う。

《現状》

1 無作為抽出による委員等候補者名簿とは

無作為抽出による委員等候補者名簿とは、住民基本台帳から無作為に抽出した1,000人に審議会等の市民委員の候補者として名簿登録を依頼する文書を送付し、その中から名簿への登録に同意いただいた方の連絡先を登録しているもの。

2 名簿登録期間

2年間

第1回：2018年6月1日～2020年5月31日

第2回：2020年6月1日～2022年5月31日

3 活用実績

第1回：2人（名簿登録102人）

第2回：2人（名簿登録121人）

《課題》

審議会等の委員等の市民募集に当たっては、公募による選考が多く実施されており、無作為抽出による委員等候補者名簿はファーストチョイスとして利用されていない。

《提言に盛り込むべき内容》

- ・各審議会等で原則無作為抽出名簿を利用した市民委員の選定を行うこととする。
- ・ワークショップやアンケート等の審議会等以外の市民参加手法で委員等候補者名簿を活用する。
- ・パブリックコメント手続きやワークショップ、市民委員公募等の際、委員等候補者への情報発信を行う。

2. 申込者の年齢層について

《対応（第2回懇談会委員意見より）》

(1) 情報の積極的な発信

①行政への関心度の向上

- ・図書館等の人が多く集まる場所にチラシを設置する。
- ・情報発信の方法について、市内大学の学生の協力を得る。

②参加のハードルの低下

- ・一（★楽しそう、自分にも参加できそうと思えるような内容であれば、意識面のハードルは下げられると考えられる。）

(2) 参加しやすい環境づくり

①行政への関心度の向上

- ・一（★夜間や休日開催等をアピールすることで関心度は上げられると考えられる。）

②参加のハードルの低下

- ・出席する手法に重きを置かず、オンライン会議のように出席しなくてもいい手法を取り入れる。
- ・日中仕事をしている人や子育て世代など、ある程度グループ化をして市民参加の取組を開催し、各グループの参加しやすい時間を設定する。
- ・20歳代から40歳代を対象とした会を開催する。
- ・ポイント等配布や表彰等のインセンティブ制度の実施を検討する。
- ・中学校や高校等で審議会等の体験をしてもらう。

(3) 市民意見の積極的な反映

①行政への関心度の向上

- ・自分の住んでいる地域がより良くなっていくことを、市民が実感できるようにする。

②参加のハードルの低下

- ・一（★参加者の声等から同年代の参加がわかれば、意識面のハードルは下げられると考えられる。）

※ ★は事務局意見

《対応の課題点等》

1 申込者の年齢層について

(1) 情報の積極的な発信

①行政への関心度の向上

- ・どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。
- ・新聞をとっていない人や市の広報紙を読んでいない人、情報を積極的に取りに行かない人がいる。

②参加のハードルの低下

- ・再掲：どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。

(2) 参加しやすい環境づくり

①行政への関心度の向上

- ・夜間や休日の都合が悪い人にとっては魅力にならない。

②参加のハードルの低下

- ・再掲：魅力やメリットがあるインセンティブでなければ、参加者の増加につながりにくい。
- ・中学校や高校等で審議会等の体験をしてもらう場合は、授業のカリキュラムとの調整が必要。

(3) 市民意見の積極的な反映

①行政への関心度の向上

- ・再掲：どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。
- ・再掲：新聞をとっていない人や市の広報紙を読んでいない人、情報を積極的に取りにいかない人がいる。

②参加のハードルの低下

- ・再掲：どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。
- ・仕事や子育て、学業等で忙しい人に、いかに目にしてもらえるか。

《提言に盛り込むべき内容》

- ・情報の発信に当たっては、より多くの人が集まる場所にチラシを設置するなど工夫する。
- ・若い世代が興味・関心を持つ情報発信に向けて、市内大学の学生の協力を得る。
- ・出席する手法に重きを置かず、オンライン会議のような手法を取り入れる。
- ・日中仕事をしている人や子育て世代など、ある程度グループ化をして市民参加の取組を開催し、各グループの参加しやすい時間を設定する。
- ・ポイント等配布や表彰等のインセンティブ制度の実施を検討する。
- ・中学校や高校等で審議会等の体験を行う。
- ・広報紙やホームページだけでなく、SNSを利用した情報発信を積極的に行う。

3. 審議会等の応募者数について

《対応（第2回懇談会委員意見より）》

(1) 情報の積極的な発信

①行政への関心度の向上

・再掲：図書館等の人が多く集まる場所にチラシを設置する。

②参加のハードルの低下

・一（★再掲：楽しそう、自分にも参加できそうと思えるような内容であれば、意識面のハードルは下げられると考えられる。）

(2) 参加しやすい環境づくり

①行政への関心度の向上

・一（★参加者の意見や参加の様子を発信することで関心度の向上につながると考えられる。）

②参加のハードルの低下

・専門的な内容の会議でも、市民目線で取組む。
・参加を希望する市民の負担にならないような選考方法を定める。
・再掲：ポイント等配布や表彰等のインセンティブ制度の実施を検討する。

(3) 市民意見の積極的な反映

①行政への関心度の向上

・各区会の区長を集めて、会議の情報を共有する。
・自分の住んでいる地域がより良くなっていくことを、市民が実感できるようにする。

②参加のハードルの低下

・学校や市内企業等から、委員を選出してもらう。

※ ★は事務局意見

《対応の課題点等》

(1) 情報の積極的な発信

①行政への関心度の向上

・再掲：どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。
・再掲：新聞をとっていない人や市の広報紙を読んでいない人、情報を積極的に取りに行かない人がいる。

②参加のハードルの低下

・再掲：どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。

(2) 参加しやすい環境づくり

①行政への関心度の向上

・再掲：どれだけ情報を出しても、興味がなければ目につかない。

②参加のハードルの低下

・各審議会等で市民委員に求められることは異なる。審議会等の内容や性質によっては、扱われる案件に対する理解や関心、熱意等が必要とされており、現在、市では、小論文と面接による選考が最も多く実施されている。なお、「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員の市民募集並びに委員等候補者の登録に関する要綱」第4条4項において、委員等の選考方法は、応募書類若しくは小論文の審査又は面接とすると定めている。
・再掲：魅力やメリットがあるインセンティブでなければ、参加者の増加につながりにくい。

(3) 市民意見の積極的な反映

①行政への関心度の向上

・市内の区会数は多く、各区会の区長が一堂に会し、情報を共有するという方法は参加者の負担が大きい。
また、市の審議会等の内容や開催時期も多岐にわたり、会議開催の都度情報共有の場を設けることは、市担当側にも負担となる。

②参加のハードルの低下

・「つくば市附属機関の委員及び懇談会等の構成員の市民募集並びに委員等候補者の登録に関する要綱」第6条において、市民のうちから募集または無作為抽出による委員等候補者名簿から任命又は選任をした市民を「市民委員」として定めており、学校や市内企業等から選出された委員は「市民委員」に当たらない。
・学校や市内企業等に選出を依頼した場合、市内で生活をする市民ではなく、所属する組織の代表という立場になる可能性がある。

《提言に盛り込むべき内容》

・再掲：情報の発信に当たっては、より多くの人が集まる場所にチラシを設置するなど工夫する。
・専門的な内容の会議でも市民目線で取組む。
・参加を希望する市民の負担にならないような選考方法を定める。
・再掲：ポイント等配布や表彰等のインセンティブ制度の実施を検討する。
・各区会の区長を集めて、会議の情報を共有する。
・学校や市内企業等に協力をあおぎ、委員を選出してもらう。
・再掲：広報紙やホームページだけでなく、SNSを利用した情報発信を積極的に行う。

4. その他（審議会等以外の手法をどのように推進していくか）

《対応（第2回懇談会委員意見より）》

（1）情報の積極的な発信

①行政の関心度の向上

- ・パブリックコメント手続きでの意見提出者数や、市民委員の応募者数から、市民がどのような分野に関心を持っているのかわかる。関心を持たれている分野により多くの人に参加できるような取組を続けながら、その他の課題にシフトする。
- ・事業を実施する際、計画の中に市民参加の実施を落とし込む。

②参加のハードルの低下

- ・—（★情報発信の際のタイトル等について市民に伝わりやすく、分かりやすい言葉を選ぶことで、意識面のハードルは下げられると考えられる。）

（2）参加しやすい環境づくり

①行政の関心度の向上

- ・—（★募集情報だけでなく、活動状況や活動結果も発信することで、行政の関心度は向上すると考えられる。）

②参加のハードルの低下

- ・—（★市民の状況等を考慮し、アンケートの設問数やワークショップの開催時間を設定する。市民参加に時間を割くことが難しい人でも、参加できるような工夫をすることで、参加のハードルは下がると考えられる。）

（3）市民意見の積極的な反映

①行政の関心度の向上

- ・パブリックコメント手続きでは、意見を提出した市民が「提出して良かった」と思えるような回答をする。

②参加のハードルの低下

- ・市外、県外から移り住んで来た人もいることから、無作為抽出を行う際、出身や地域等を限定する。

※ ★は事務局意見

《対応の課題点等》

（1）情報の積極的な発信

①行政の関心度の向上

- ・パブリックコメント手続きでの意見提出者数や市民委員応募者数はテーマによって偏りがある。

②参加のハードルの低下

- ・従来の情報発信の手法で十分かどうか。

（2）参加しやすい環境づくり

①行政の関心度の向上

- ・—

②参加のハードルの低下

- ・時間や場所等が考慮されているとしても、会場へ行くことや対面で意見を発言することが苦手な人もいる。

（3）市民意見の積極的な反映

①行政の関心度の向上

- ・—

②参加のハードルの低下

- ・市が無作為抽出を行う際には、住民基本台帳のデータを利用している。住民基本台帳からデータを抽出する際に出身地まで限定することが可能か、確認が必要。

《提言に盛り込むべき内容》

- ・パブリックコメント手続きでの意見提出者数や市民委員の応募者数等から分析し、市民が関心を持っている分野により多くの人に参加できるような取組を行う。
- ・事業を実施する際、計画の中に市民参加の取組実施を落とし込む。
- ・パブリックコメント手続きでは、意見を提出した市民が「提出して良かった」と思えるような回答をする。
- ・市外、県外から移り住んで来た人もいることから、事業の内容や性質に応じて、無作為抽出を行う際、出身や地域等を限定する等の工夫を行う。
- ・再掲：ワークショップやアンケート等の審議会等以外の市民参加手法で委員等候補者名簿を活用する。
- ・再掲：パブリックコメント手続きやワークショップ、市民委員公募等の際、委員等候補者への情報発信を行う。

会 議 録

会議の名称		令和2年度（2020年度）第2回つくば市行政経営懇談会		
開催日時		令和2年（2020年）11月16日（月）18:00 開会 19:30 閉会		
開催場所		つくば市コミュニティ棟1階会議室2		
事務局（担当課）		政策イノベーション部 企画経営課		
出席者	委員	飯田委員、上田委員、上平委員、佐藤委員、白倉委員、永田委員、星埜委員、堀委員、水谷委員、溝上委員		
	その他			
	事務局	森政策イノベーション部長、杉山政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、会田企画経営課長補佐、中村企画経営課長補佐、大見係長、栗島主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 令和元年度（2019年度）つくば市市民参加取組状況報告について (2) つくば市市民参加推進に関する取組の課題について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会 議 次 第	1 開会 2 議事 (1) 令和元年度（2019年度）つくば市市民参加取組状況報告について (2) つくば市市民参加推進に関する取組の課題について 3 その他 4 閉会			

<審議内容>

○事務局 それでは定刻となりましたので、ただいまから令和2年度第2回つくば市行政経営懇談会を開催いたします。それでは早速ですが、議事に入りたいと思います。

進行は溝上座長にお願いしたいと思います。溝上座長よろしくお願ひいたします。

○座長　こんばんは。遅い時間に皆様お集まりいただきましてどうもありがとうございます。本日は皆さんおそろいということで、遅い時間ではございますが、よろしくお願ひします。

では、最初に本日の予定を申し上げさせていただきます。本日御議論いただく内容は次第にございますように、令和元年度（2019年度）つくば市市民参加取組み状況報告についてと、つくば市市民参加推進に関する取組みの課題についての2点でございます。

本日の会議でございますが午後7時30分を終了予定として進めて参りたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願ひします。

また会議の公開非公開につきましては、すでに原則公開ということが決定されておりますので、本日も公開ということで進めさせていただきます。

次に、本日の配付資料につきまして確認をしたいと思います。次第に本日使用する資料一覧がございます。御確認いただきまして過不足がある場合は事務局までお知らせください。皆さん、よろしいでしょうか。では早速議事に入らせていただきます。

令和元年度（2019年度）につくば市が実施した市民参加の取組みにつきまして、この懇談会で市民参加の推進が、効果的に実施されたかどうかの検証を行います。取組み状況につきましては資料1に記載されているほか、実施したアンケートの集計結果が参考資料1から6として添付されております。それでは事務局から説明をお願いします。

○事務局　【資料1に基づき説明】

○座長　はい、ありがとうございます。これから皆さんの御意見を伺っていくところではございますが、まず、今御説明いただきました資料で、御不明な点、意見ではなくてですね、ここがちょっとわかりづらいとかいう御質問が

ありましたら、最初にお受けしたいと思いますが、審議資料1、それから関連する参考資料でわかりにくい点はございましたでしょうか。はい。

○委員 今回から参加させていただきます。つくば市の二の宮で弁護士をしております。平成30年の市民参加の話し合いの時も参加させていただいております。ちょっと質問ですけど、Ⅱの1の市民参加の実施件数等のグラフ3は、これは延べ件数とあるんですけど、全部で。これ64件の事業数なんですよ。これはどういう計算になっているのかなという素朴な疑問なんです。

○事務局 はい。グラフ3の令和元年にある1市民参加の4段階ごと延べ実施件数ですが、一つの事業の中で、共有理解、企画立案計画等複数に該当しているものがありまして、そちらを含めておりますので、この件数になっております。

○委員 そうすると、64件が全部ではないという。

○事務局 64件の事業の中で行われた市民参加手法が。

○委員 なるほど、なるほど。わかりました。

○座長 はい、他に。御不明な点、確認したい点ございますでしょうか。はい。

○委員 5ページのパブリックコメントの手続きの実施というところの数字のことなんですけれども。こちらは、実施件数は13件って書いてあるんですが、この1から13っていうのはもともと市役所の方で区切ってっていうか、項目ごとに分けてそれでその中で意見を言ってくださいっていうふうにして質問したものなのでしょうか。

○事務局 はい。それぞれ計画を策定している間でこの期間にパブリックコメントを実施しますという期間があるんですけども、その時期に、例えば一番のつくば市自殺対策計画が4月から5月にかけてパブリックコメントを実施して、その中で意見をいただいたケース、人数がお1人で1件で、5月6月にかけて、また別のパブリックコメントが実施されてっていうような形で行われております。このような解答でよろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

○座長 はい、他にいかがでしょうか。また意見交換を、意見をちょうだいする中で、ちょっとこの表の見方の数字はどういう意味かということで御疑問が出られた場合は、その都度御発言いただくとしまして、では早速ですけども、意見交換に移らせていただきたいと思いますが、一つ大変恐縮ですが、前回もですね、市民参加って何という部分の、議論がいろいろ分かれまして、なかなか皆さん全員、我々の中でも統一見解を作ることが難しいのは重々わかっています、今日の資料1の1ページを開けていただければ。議事次第の次のページですね。「2. 市民参加」とは、というところで、「市民が直接的に市政に参加すること」、「市民が主体的にまちづくり活動に取り組むこと」の二つの側面があると。で、指針ではですね、市民参加のうち、「市民が直接的に市政に参加すること」を対象とするというふうな形で定義させていただいておりますので、今日の令和元年度（2019年度）のつくば市市民参加取組み状況報告の評価と申しますか意見もですね、その観点から御発言いただくと、議論として深まりが出てくるのかな。十分これでも、抽象的なんですけど、まちづくり活動に主体的に取り組むということはちょっと置いていただいて、市民が直接的に市政に参加するということを念頭に置いて、御意見いただくとありがたいなと思いますので、よろしく願います。

これまた、評価でございますので、よかった点、要するに評価すべき点とそれから改善を要するっていう二つの方向性があると思います。なので、まずはですね、効果的だったと。今回の資料を御覧いただいて、報告を御覧いただいてですね、効果的だった、良い点とかですね、引き続きぜひこれは進めていくべきだというところの御意見をまずいただいて、そのあと、改善する取組み、この点は改善すべきだという点を御議論いただいた方がいいかなと考えておりますので、まずよかったと思われる点、いかがでしょうか。よ

かった、効果的でしたね、と市民参加としてこの点は非常に効果的だったと評価していいんじゃないかという点、お気づきになった点で結構なんですけど、いかがでしょうか。あら、効果的だった点はないと。はい、お願いします。

○委員 まず、この今回参加する前に市のホームページを見たんですけれども、ちゃんと市民参加という項目で、市民参加どんな取組みしてますかっていうのがまとめられていると。なので、探そうと思えば、しっかりとそういう情報提供がされているなという印象は受けました。一昨年議論した時になるべく、特に市民委員ですかね、懇談会とかの審議会の市民を入れましょうということで、ほぼ可能なものは入れられているのかなと思いましたし、あと逆に入れることができない審議会等に関しても、その理由がしっかりと示されているというところにおいては、かなりわかりやすい部分なんじゃないかなとは思っています。

○座長 ありがとうございます。他には。

○委員 私はこの3ページの、いろいろな手法、シンポジウムフォーラムアイデア、私もアイデア参加とか、幾つか参加させていただいた事あるんですけれども、これだけいろいろ多岐に渡っていろんな手法を用いてるというのは、すごく昔はなかったことがたくさんあるので、とてもいいなと思っております。

1点だけこれあの、質問なんですけれども、出前講座というのは私、市の職員さんが行って、市民にこういうものですよって説明をすることだと思ってるんですけれども。それは、市民参加の取組みなのかなというのがあるんですけど、どうでしょうか。

○事務局 出前講座に関しましても、行政の方に依頼がありまして、それに対して御説明をさせていただく、説明という意味では共有理解のところに、かなり深く関わってくる市民参加の一つの手法であるというふうにとらえてお

ります。

○座長 よろしいですか。他にいかがでしょうか、目が合ってしまった委員、いかがでしょうか。

○委員 はい。どうもよろしく申し上げます。そうですね、良い点ということで、私もここ、非常に市長を中心に、積極的に市民に声かけてるんじゃないかなと私は思います。こういった市民参加の指針とかそういうのが整備されていて、多岐にわたることについて、非常に整備されていて、かつ、ここ数年ですか、いろいろと出前講座じゃなくてですね、タウンミーティングをやったり、いろんなイベントをやって、こういうチラシで、広報もわかりやすくなったと思うんですね。縦から横になったんではたっけ。そういう見やすくなってですね、非常に情報の開示っていうのは、良くなってると思います。ただそれを、これ後の議論なんですけど、市民が知ってるかどうかというところがポイントだと思うんですね。関心のある人が見れば、すごいことやってるなあというふうに感じるとは思いますけど、実際にそれに参加する、参加しないかってのはまた別問題ですけど、体制は整ってると非常に思います。

○座長 ありがとうございます。

○委員 はい。取組み自体僕も非常に充実してやって、中身もですね、それに伴って、多くの市民の方が参加してるようになってるなというふうには、実感として思っています。特にこの市民委員の意見交換会、これが市民委員としてですね、参加しっ放しではなくて、フォローアップじゃないですけども、実際に市民として参加していただいて、どのような手応えというか、あるいは感想をお持ちになったのか、そしてそれがもう少し展開して広がっていくためにはどうしたらいいのかっていうことを、ワークショップというか、皆さんに考えていただく機会を作ったというのが、非常にこれは貴重な意見がたくさんあるんじゃないかなというふうに思います。審議会はやっぱりある程度、大きな課題について検討するところが大きいと思うので、個別

具体的な関心はなかなか拾い上げることは難しいんですけども、こういったことをきっかけにしながら、市民活動っていうのはやっぱり種まきで、少しずつ仲間を増やしていくっていうことが必要だと思いますので、こういうフォローアップではないですけども、実際に参加した方々にもう一度こう振り返りをさせていただくような機会を作るっていうことはこれからも続けていきたいなというふうに思います。

○座長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

これから順番にお願いして意見を伺うことになると思いますが、最後の方はきっと、いや前の人と同じで、もう言うことありませんという話になると思いますので、全然同じ意見でも、良い点はすぐれていいという形で、着目すべきだと思いますので、いかがでしょうか。

○委員 今年初めて委員になったものですから、昨年までの取組み、取組みの現実っていうものにちょっと私も参加したこともないし、実態がよくわかってないんで、まともなことちょっとお答えできないんですけども、ただ見てみますと、やっぱり周辺部と中心部の方達、あるいはその年齢的にですね、偏りがあるとかっていうことがあるので、それから漏れたっていうかその少ない人たちのね、意見っていうものをやっぱりどうやって、どういう形で拾い上げていってるのかなという。やはり発言する人だけ、この中にもありましたけど、声なき声っていうのはね、それをどのようにやっば拾ってくるかっていうことになるので、中央に来ていろんな発言していただくということなかなか苦手な方が多いと思いますので、いかにその行政の方からその地域の中に、入り込めていくのかっていうですね、そういうフットワークのよさそうですね、取り組んでいただけると。なかなか周辺部の人ってやっぱり人前で発言するっていうの、苦手なんですよね。ですからその辺のところを組んでいただいて、発言する人はどこでも発言できると思うんですけども、そうじゃない立場の人をどのように広げていくかという、そういうことも大切な

のかなというふうに感じました。

○座長 ありがとうございます。では、よろしいでしょうか。

○委員 ちょっとこの5ページのこの、やっぱりパブリックコメントということで、125人の意見を拾ったっていうのはやっぱり大きいと思います。もう本当だったらやっぱり人対人であって、意見交換会とか出前講座とかそういうのに参加できて自分の意見を言えれば一番いいとは思いますが、やはりちょっと日時が合わないとか予定が合わないとか、そういう大勢の前では自分の意見がうまく言えないっていう人もいると思うので、こういう、ある程度の期間を設けてそれで自分の考えを市に伝えるっていう手段があったのはとてもいいことだと思います。

○座長 ありがとうございます。では、お願いします。よろしいでしょうか。

○委員 はい、そうですね。ちょっと御報告聞いたときには、すごくポジティブにとらえられる部分がないような報告をされていたんですけど、他の委員の方がおっしゃってるように、市としてはとても頑張っている方々に市政参加を求めるような行動をされてると思います。

私が感じたところとしては、興味を立てるといふ部分が少し弱いのかなと感じました。広告とかをちょっとやっていたんですけども、参加されてるのが60代の方が多いですとか、やっぱり10代20代に刺さるといふ部分が、少し足りていないのかなと。先ほど出前講座で、小学校とか中学校とか先生からお呼ばれがあったら、10代20代に刺さるような講座を市役所の方がされてるといふお話もあったので、その辺の御報告をもうちょっと聞ければ嬉しいなと感じました。以上です。

○座長 ありがとうございます。ではお願いします。

○委員 皆さん言ってましたけど、やってることはいろいろあるんですけども、自分が興味ないのか何だかわかんないですけど、こんなにいろいろやってもあんまり市の対策っていうか、やってることはあまり自分には伝わってこ

ないなというのが率直な意見で。

こんなにもものがある、一番下にちょっと質問になっちゃうんですけど、「その他」っていうのは何に分類されるのかなっていう。こんなにいっぱい上に項目あるのに「その他」って部分があるっていうのは何かあれだなと思ひまして。

あと、こういうのを開催すると、どうしても都市部である研究学園の周りとかが多いのかなあとは思ひうんですよ。私の方はつくば市の田中っていう北の方の地域なので、どうしてもそういうところにいると、こういうのには参加できないのかなっていうのは少しは思ひました。

○座長 今、委員から御質問が出たのは、3ページのグラフ1「令和元年主な市民参加手法の実施事業数」の「その他」で。

○委員 そうですね、はい。

○座長 もし何か情報をお持ちでしたら。

○事務局 その他につきましては、例としては企画経営課で実施した未来構想等キャラバンというものがあつて、こちらから例えば、企業向け、研究者向け、あと子育て世代ということで、枠を区切って訪問して御説明させていただくっていう。出前講座のように依頼があつてからではなく、こちらが行くっていうようなものであつたり、あと都市計画の方ですと、バスツアーみたいなものやつておひまして、つくば市の都市計画について、バスで現地を回りつつ、その中で後はお話をさせていただくっていうようなものがここに含まれてきます。

○委員 はい。すいませんわかりました、ありがとうございます。

○座長 ありがとうございます。では、お願いします。おんなじでも全然構ひませんから、はい。

○委員 順番が回つてくるなと思ひつて。私が一番びっくりしたというか、パブリックコメントの意見提出方法が、電子申請が多かつたっていうのが、ちょ

っと驚いたというか、私ぐらいの年代や、もうちょっと若い年代もですけど、電子メールまでだと思っんですね。でも、この電子申請っていうので、より幅広いというか、若い方たちも自分たちの意見を通すことができるようになったんじゃないかと思って、その取組みはすごくいいと思います。はい。

○座長 ありがとうございます、はい。何となく皆さん一生懸命いい点を拾ってくださったというような気がしないでもないんですけど、はい。多様な形で展開されていることは、はい、引き続き、ぜひ継続していただきたいというようなことがあったように思います。

すでに一部の委員からは、改善すべき点ということも御意見としていただいているところですが、2番目に、効果を得るために改善が必要と考えられる点について、御意見、次に伺いたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○委員 パブリックコメントについてなんですけれども、私も何回かパブリックコメントを出したりしてるんですが、結構答えが他の人とおなじで、このことについては検討いたしますとか、これは今回の内容等は違うので検討しませんというか、ちょっとこれは考えませんよというような、結構冷たい、一生懸命考えた割にはそういう答えがずらっと並んで、他の人の答えもみんな読めるので。パブリックコメントってとても大事な行政の一つの手続きだと思っんですけども、一生懸命考えてるので、みんな。もう少し暖かい、御意見ありがとうございますとか、なんかこう、少し書いてよかったなっていう気持ちにさせていただくと、他の人にも一生懸命、行政の人は私の意見も読んでくれて考えてくれてるとかいう、そういう話もできて、もう少し広がるんじゃないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。では今度はこちらからということで、お願いいたします。

○委員 これはあれですか。資料2の取組みの課題とかそこはまだ行かない方がいいんですよね。

○座長 資料2は、はい。

○委員 また別ですよ、わかりました。であればそうですね、先ほどのホームページとかでよくまとめられて、横断的に把握できるようになっているところの裏返しなんです、ホームページにしても、市報にしても、なかなかそのやっぱり目立たないというか、情報取りに行けばわかるんだけど、どうしても関心がない、あるいは関心がないとは言わないけれども、そこまで積極的には忙しいし、探しに行かないよっていう人にやはり届いてないかなど。私もつくば市民、一市民として、市報読んだり、たまにウェブサイトを訪れたりっていうぐらいなんですけど、私この委員をやったから、市民委員公募してるなとかっていうのはちょっと目につくんですけど、多分やってなかったら気づかずに過ごしちゃってるかなっていう気はするんですよ。なので、これはさっき別の方がおっしゃられた広報、どうやって潜在的顧客にアピールしていくかみたいな、そういう手法の問題になっちゃうのかもしれないんですけども、そこはもちろん市がいろいろな優先課題がある中で、トップページにですね、ドーンと市民募集してますとか市民参加これやってますっていうのをやることのできないのはわかるんですけど、何らかの方法で、もうちょっとこうわかりやすいというか、特にこれ見ると若い世代ですよ、にアピールできるようなやり方が考えられるといいんじゃないかなとは思っています。

今日も夜開催してますけど、例えば仕事ある方にとっては非常にいい時間帯だと思いますし、他方でまた昼がいいってような子育て世代の方とかであれば広がりとかいろいろあると思うんで、そういう工夫をしたりとか、その点はもうちょっと改善の余地があるんじゃないかなとは思ってます。

○座長 ありがとうございます。では、お願いします。

○委員 ちょっとずれると思うんですけど、おっしゃったように、やっぱり興味がないと目につかない。その興味を、芽生えさせるためには、どんなに

こっちから情報出しても取る意思がなければ、絶対取らないので。可能であれば、この出前講座というのがありますよね、例えば、中学校とか高校で、模擬のこういう審議会とか、やっぱりそういう体験を若い人たち学生たちにさせない限り、広がってはいかないと思うので、ちょっと別の角度になってしまいますけれど、やっぱりそこが大事じゃないかなと思います。

で、今日もこうやって夜開いて、お仕事なさってる方たちも、割と気持ちを楽しみながら参加できると思うんですけど、一方で、職員の方たちは結局時間外なわけですよ。それなので、こういうつくば市の市民としてであれば、つくば市の中にある企業の人達も1市民ということを考えて、就業時間の中で市民委員をやるという人に対して快く出せるとか、やっぱりそういう意識改革っていうのはとても大事だと思うので、これはこの中では広がらないかもしれないけれど、どこかでそういうアピールをしていただけないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。では、よろしいでしょうか。

○委員 改善すべき点はあるという話でしたけど、若い人は興味ないのは、やっぱり自分だけかもしれないですけど、自分の住んでる地域がより良くなっているのが目に分かったり、実感すれば、興味があって意見が言ったりするのかなとは思いますが。どうしてもやっぱり、つくば市であると、研究学園の周りが優先されてるのかなっていうのは、どっかで思ってる自分も少しはありますし。今、言われました企業の方をつくば市にある企業の中の人たちで市民を立てることも、私は本当にいいのかなと思いますよね。その方が、つくば市に会社があるわけですから、その人たちに上手に、その会社の1人の代表として上に上がって来てもらうのも、すごくいいことだなと少し私も思いました。以上です。

○座長 ありがとうございます。では、お願いします。

○委員 はい。そうですね皆さんが言ってくださった通り、やっぱり市の中心部

と市の奥まったところではやはり、情報格差があるということは言えることだと思います。私も中心部に來ることはあるんですが、外れの方に普段住んでいまして、はずれの方の公民館に行ったりするとチラシだったりとか、情報得るものがたくさん置いてあるので、今回の市民委員とかもチラシから手に入れたんですけれども、情報をどういふふうに取り捨選択するかということと、あと若い世代にどういふふうに、バスなり電車なり使ってると思うんですけれども、どういふふうに注目を集めていふかということ、今後検討していふべきことの一つなのかなと考えます。以上です。

○座長 ありがとうございます。では、お願いします。

○委員 はい。前もちょっと話したんですが、意見を出すという中においては、市に働きかけるには、個人はやはり自分にメリットがないと意見を出してこないんですね。自分に関心のある、自分に利益をもたらすことについては、意見を言ってくると思うんですが、そうでないことについてはこれはもうボランティアですよ、メリットがないことは。例えば、つくば市のために一生懸命頑張ろうとか、そういう何とかしようという意見を出す方は、やはり60代、50代の方が多いんじゃないかと思ひます。そうすると30代、40代の人っていうのは、忙しいからそんな時間がないわけですよ。これを言えば、例えば自分の教育のこととか、買い物とか助かるんだったら意見を出してくると思うんですけど、そうでない事案に対しては、多分意見は言わないと思うんです。そんな暇がないってなってしまう。じゃどうしたら意見が出るかっていう話なんですけども。

あとは意見が出ない、関心のない人に意見を出させるには、例えば学校レベルで調整ですね。民間でも民間の職場で、お前、委員になって意見言ってこいとか、という誰か選んで強制的に出し、意見を出してもらうとか学校とかそういう場で。だれだれさんという人選も、それは学校とか職場で適切にやってくれると思うんですね。そういう人に、意見言ってくださいという

形はあるかと思うんです。手法ですね。

で、あとちょっと気になったのは、このいろんな応募の申込書があるんですけど、必ず600字だとか、履歴書を出してとか、面接がありますとかってこう書いてあるんですね。これちょっとハードルが高いと思うんです。こういうふうになると、なかなかみんな募集してこないと思うんです。相当時間がある方でないと、こういうのには募集しないと思います。一般の主婦の方とか、そんな時間ないですよ。そこがハードルがちょっと高いなと思うんですね。

で、これとこれはまた別で、どんどん意見が出るにはどうしたらいいかっていう一つの手法なんですけど、あまりいいかどうかはわかりませんが、意見を出した人には何か報酬を与える。地域ポイントとかそういうのを考えてらっしゃると思うんですけど、何かいい意見出した人には。よくスマホではありますよね、ファミレスでも何でも行ったら。意見出してくれた人にはポイント差し上げますとか。これがいいかどうか分らないですけど、いい意見出してくれた人には何かこうやるよって言えば、みんな一生懸命考えるかもしれないですけど、これを行政に入れていいかどうかってちょっと問題はあると思います。地域ポイントあれば、例えば地域ポイントでその地域のものを買えるとか、例えば住民票がそれでポイント使えるとか、そういうことを多分つくば市の方も考えられてるんじゃないかなと思うんですけど、ちょっとハードルは高いと思うんですけども、何かメリットがないと出てこないと思います。ありがとうございます。

○座長 はいそれでは、お願いしていいですか。はい。

○委員 私もちょうと皆様と同じように、せつかくこうつくば市で良い取り組みをしていても、それが知られてないっていうのはやっぱり問題だと思って。例えばチラシなどだったら人がより多く集まる場所、例えば図書館とかそういうところに置いてみるっていうのも一つの手かなと思います。あと、つ

くば市でやってることを宣伝するために、例えばせつかく筑波大学とか大学があるんで、そこの大学でそういうプロジェクトを立ち上げてもらって、学生たちにその知恵を出してもらって、それで一緒になって、どういうふうに宣伝していくかとか、例えばそういうのをやってみたらちょっと面白いかなと個人的には思います。

○座長 ありがとうございます。ではお願いします。

○委員 はい、もちろん本当に様々な方々に参加していただくっていうことが一番大事なことであることは間違いないんですけども、例えばパブリックコメントにしてもですね、つくば市教育大綱であるとか、学校等適正配置計画とかですね、子ども子育て支援プランとか、子どもの子育て、あるいは教育に関することですね。それからつくば市戦略プランとか、まちづくり戦略とか、もちろんセンター中心部っていうのがあるんですけども、もっと広く、まちづくり全般、周辺市街地も含めてですね。とかあるいは、審議会の委員候補委員の応募者数なんか見てもですね、自転車のことであるとか、あるいはアイラブつくばのまちづくりとかですね。今の市民の方がどういうことにすごく関心を持ってるかっていうことが、結構あると思うんですね。そういうところについて、より重点的に多くの方々が参加できるような形の取組みを続けながら、そこからですね、いろんな課題の方にシフトしていくとか、そういうような取組みなんかも有効なのかなというふうに思いました。

○座長 ありがとうございます。はい、最後になりましたけど、お願いします。

○委員 私は区長を今やってるわけですけども、周辺地域だとやっぱその区長さんなんか中心に活動されてるわけなんですよね。ですから、こういう会議の内容を区長さんたちを集めてですね、情報を共有するというようなことも大切になってくるんじゃないのかなと思います。さっき言った区長さん全員が責任もってやってるわけではないんですけども、それが一番困って

るんですけれども、ですから、例えば各地区です、区長会長はじめ、そういう、ここにも書いてあるように参加する市民が少しずつ増えていくことで、ということで、最初からのゴールはもっともっと減らないと思いますので、そういう動きもやっぱりやっていただくと、周辺部にとっては多分ありがたいことになるのかなと。

それから、いろんな委員会とか懇談会出てるんですけれども、やはりその専門性が高いような話の内容が多いので、それに馴染んでない部門になりますとね、理解がなかなかしづらいで、やはり市民目線でどのように取り組むかっていうようなことも、もっとこう取り組んでいただくとわかりやすくなるのかなっていうふうに思いますね。

○座長 ありがとうございます。皆様から、いろいろな意見をいただいて、昨年度の評価ということで、すでにこのような形で改善したらいいんじゃないかというヒントもいただいて、ありがとうございます。本来ここで1回ちょっとまとめをしなきゃいけないんですが、時間の都合もありますので、議題の2番目、今、昨年度の市民参加取組状況を皆さん、情報として提示させていただいたという形で、次、つくば市市民参加推進に関する取組の課題についてということで、事務局から、まず資料2ですね、説明お願いできますか。

○事務局 【資料2及び参考資料7に基づき説明】

○座長 はい。関連して、委員からの資料のことは、今いいですか。本日、これから市民参加の取組みに関して御議論いただくんですが、委員の方から参考資料の御提示があると伺っておりますので、まわしていただいてよろしいでしょうか。

○委員 数年前に、つくば市自治基本条例というのを制定しようという話になったときの、そのワーキングチームにおりまして、ずいぶんその時に活動しながら市民の意見を集めたいという、そういうときがあったんです。その時にこれは平成23年度なので、今から10年ぐらい前です。これをワークシ

ワークショップをやろうと言った時に、やはり今の皆さんの御意見と同じように、わざわざ来る人とか、それからなかなか意見はないよとか、そういう人をどうやって集めるかというので、いろいろ悩んで、何をやったかという、テクノパーク桜にわたし住んでるんですけど、そこのお祭りでステージがあるんですね、その一つのプログラムにこのワークショップをやったんです。そうするとそれ、今からこれをワークショップやりますと言って皆さんに呼びかけて、御参加の方はボックスティッシュ1個差し上げますという形で参加を呼びかけましたところ、お祭りでね、結構ものすごくたくさんの方がいらっしやっていたんですけど、ちょっと参加するよというわけで、参加予定人数を大幅に増えたという経緯があるんですね。やはりこれ、とてもここに書いてあるような、スケッチブックを用意して、そこにつくば市のいろんなことを思うこと、自由に書いていただくという内容だったんですけども、やはり先ほど皆さんがおっしゃったように、ハードルが高い、どうしてもそこへわざわざ行ったり、お仕事してたり、そうするとなかなか行けない。そういう場合、市の方から地域のイベントとか、地域でやっていることに参加して、そこで、そこにいらっしやってる方の意見を聞くという、そういう手法があってもいいんじゃないかなと。私これ、その時のスケッチブックはそのあと、自治基本条例結局は実現には至らなかったんですけども、すごく参考にさせていただいたということがありまして、今でも感謝してるんですけども、そういった取組みとして、いかにハードルを下げるかという、一つの例としてちょっと今日持って参りました。

○座長 ありがとうございます。はい、委員の資料、それから資料2そして参考資料7辺りを御覧いただきたいんですけど、まず、同様に資料で何か御不明の点ございますか。はい。

○委員 すいません。無作為抽出による委員等候補者名簿の活用というところですけど。これ実際に1,000人に送って、100人が登録するよ、として返って

きて、じゃあ1人選びましょうというときは具体的にどういうプロセスで選任するのでしょうか。もう決め打ちで1人にポンとお願いしますと、はい、いいですよと言えば済むのか、あるいはその他の方法なのかちょっとその辺の具体的な手続きを教えてください。

○事務局 無作為抽出の委員等候補者名簿を使う際は、御登録いただく際に第3希望まで興味のある分野を伺っております、会議の担当課から無作為抽出名簿を使いたいという話が企画経営課に来ましたら、その分野に関心を持っている方々のリストということで、10人程度名簿を渡しまして、その上から順にお声がけをしているような状態です。お声がけしている中で、今回は忙しいのでということで辞退される場合もありますし、お引き受けいただき、ではお願いしますというような形になっております。

○委員 逆にお声がけして、ちょっとこれは無理じゃないかっていうような場合に、こちらから断るみたいなことはあり得るのでしょうか。

○事務局 お断りをこちらからしたというようなお話は、これまで実施回数は少ないですけども、2回、あとは企画経営課でも行いましたけれども、そういう事例はありません。

○委員 わかりました。ありがとうございます。

○座長 他に御質問ございますか。よろしいですか、はい。

では、すでに皆様から昨年度の取組みの改善点という時に出された御意見で、まずは13ページの年齢層の偏り、それから地域のことはちょっとここには出てないですね、周辺部か中心部か。しかし15ページですと、応募者数、そして無作為抽出の活用という点で、事務局としては申込みの年齢層、応募者数、それから無作為抽出の活用という3点が今後の課題だというふうに出されておりますが、その他に先ほど申し上げたように、周辺部と中心部の格差をどう是正していくか、埋めていくかという点と、それからいただいた意見としましては、情報発信してりゃいいっていうもんでなくて、ちゃんと

市民に情報が届いているかという工夫を考えていく必要があるだろうといった点が、今後の課題というふうに私は思えました。あと、同じことなんですけど、年齢層の偏りに関して言えば、若い世代に興味関心を持ってもらうという取組みを考えること、そこら辺があるとは思いますが、何か皆さん、この点は課題として取り上げて議論したほうがいいんじゃないか、もしくは市の方で改善を考えていただくこと、という点はございますでしょうか。はい。

○委員 すいません、発表していただいた情報を発信してユーザーに届く工夫というところなんですけれども、課題で、今、市の方から発表していただいた内容で、20代から40代までに、つくば市には市政に市民が参加できる環境が整ってるものと思うかと尋ねたところ、わからないという回答割合が高かったほか、市政に対する自分の意見と市に伝えたことがあるかという質問については、市に伝えたい意見がないという回答割合が上位という結果ということなんですけど、これがまさにそのままそのものの問題だと思っていて、なぜわからないかっていうと、まずここで聞いている、「市に伝えたい意見がない」の市っていうものがないっていうことと、あと伝えたい意見、自分の中の気持ちですよね、さっきあった、気持ちがわからないっていうこの二つだと思います。市がわからないのは、また市役所にあんまり来たりしないとか、市役所の組織図とか人間がどういう、市長さん以外わからないとか、まずその市というものがよくわからないということですよ。あと伝えたい意見がないっていうのは、多分、普段市に住んでる限りは、ふとこの道路は不便だなとか、もっと他の市民の人はどういう生活をしてるんだらうってふうな、ポツと思いつかぶことはあると思うんですけど、それを言語化できていないので、それを日々のコミュニティ活動であったり、大学活動であったりの中で拾い上げていくっていうこの二つが不足しているんじゃないかなと考えます。

○座長 ありがとうございます。はい。おっしゃる通りでという感じで、ぜひ

はい他の皆様も、はいじゃあ。

○委員 先ほどのお話にもありましたけれども、やっぱりこの市民参加ということになると、市民が来ることをね、待ってるような、待ちの姿勢じゃないのかなってやっぱそういうイメージを受けるんですよね。やっぱりおっしゃったように、例えば各地区に相談センターなんかも作りましたけども、最初は地域のことをわかってる方がいらっしゃって、すぐアクションしてくれるんですけども、人事異動で変わるとですね、なかなかそのようなところがうまく繋がっていかないというようなことで、私も最初はよく行って、協力いただきまして、地域の改善なんかやったんですけども、変わってからやっぱりコミュニケーションが取れてないんですよね。そういうこととかですね。あとは社協さんなんかはやっぱり、例えば触合い相談員とかなんかでも各地区に出かけて行ってですね、3か月に1回、それで谷田部のように広い地域ですと東と西に分けてですね、2回に分けてそういう懇談会をやるんですね。そういう事情の経過とか、それから要望を聞いたりですね、そういうことでコミュニケーションとられてるわけなんですね。ですからその辺のところも市の方はお忙しいのかもわかんないんですが、やっぱり自分の業務の行動計画の中にですね、どういう時期にこういうことをやるんだということを落とし込んで、それを優先的にやっていけば、もっとやっぱりその地域の実情もわかるし、地域の人との交流、コミュニケーションも進んでですね、いろんな意見が出てくんじゃないのかなと、そんなように思いますね。

○座長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

以前ですと、新聞とか回覧版で、印刷物で回ってくると、別に読みたくなくても目に飛び込んでくる情報ってあったと思うんですけど、今デジタル化してしまうと、先ほどおっしゃった、自分で探しに行けばすごい宝の山、情報の山があるんですけど、なかなか目視、意識しないと目に飛び込んでこないっていう部分も、よりその市民参加みたいなことが、特に若い人はあんま

り新聞取りませんからね。ネットで新聞読むにしても、紙媒体としての新聞読まなくなってきたということがあると思うので、もう今までとは違う形で情報を市民の人たちに提示していくっていうことが必要なのかなって今、委員のお話を聞いててちょっと思いました。

他にいかがでしょうか。先ほど委員がおっしゃった、このポイント制というか、何か参加すると何かいいことあるよみたいな、さすがに現金を配るっていうわけにはいかないと思いますが、皆さんが気軽に参加できて、それなりに、先ほどティッシュボックスはすごくいいと思うんですけどね。それも私の方は難しいと思うんですが、何かこう、ちょっとスタンプでも何でもいいんですけど、あると。パブリックコメント1個言うと、スタンプ1個みたいなね、ものがあると、何かちょっと市民参加の見える化みたいなものがあったらいいのかなあ、とちょっと今話を聞いてて思いましたが、はい。その点、いやいやそれはしちやいかなでしょう、税金使うんだからっていう御意見も、当然私はあるとは思いますが、いかがでしょうか。はい。

○委員 私もあんまり詳しいわけじゃないんですけど、例えばアメリカとかのコミュニティとかで見ると、こんないいことしましたよ、この市民は、みたいな感じで表彰みたいなのを本当に何て言うんですかね、ものすごい業績を上げたとかじゃなくても、こんな地域のために良いことしてますよみたいな人を取り上げて、表彰するみたいな取組みをしてるケースを目にしたことがあって、まあ、あの、人ってもちろん金銭的な経済的なメリットで動くっていうのもありますけど、そういう名誉であったりとか、やりがいみたいなもので動くっていう面もあるので、そういう形で動機づけというか、インセンティブの与え方っていうのはあるんじゃないかなと思います。

○座長 そうですね、はい。すいません、日頃の私の生活がつい経済的な方になっちゃうもんですから、おっしゃる通り人間なにも経済的メリットだけで動いてるわけでございませぬから、はい、表彰ですね、ていう部分がすごく、

はい。他にいかがでしょうか。もう一つでは、市民参加のアンケート結果について、はい、今日配布いただいた資料、参考資料7ですね参考資料の方の39ページあたり、今日お配りしましたので、じっくり御覧いただく時間はなかったかもしれませんが、何かこの結果で、御意見とかってございますでしょうか、はいどうぞ。

○委員 このつくば市未来構想市民ワークショップっていうのは具体的にどのようなことをされたのでしょうか。

○事務局 未来構想という市の最上位計画として作っているものなんですが、こちらにつきまして、昨年度と一昨年度、2か年かけて作成しました。その際に、1年目、一昨年ですね、一昨年作成するに当たりまして、市民の意見を取り入れながら作ろうということが前提にありましたので、その意見を集約する手法として、一般的なアンケートに加えまして、実際に公募をかけて、ワークショップに参加できる方いますかということで、公募をかけて、集まった方希望する方にワークショップに参加していただいて、市の現状を把握していただく。内容としては市の現状を把握していただいて、市が抱える課題であったり、あとはそれについての改善ですね、ということワークショップの中で話し合っていた後、一つ、今回未来構想の話になってしましますが、大きな作り方の特徴といたしまして、バックキャストという手法で作っていましたので、つくば市はこういう将来になったらいいなっていうのを参加していただいた市民の方に思い描いていただいて、そのためにはどういった障害が今現状あるかとか、そういったものを話し合いの中で解決していただいて、理想の形に近づけるっていうようなワークショップを実施したっていうことになっておりまして、その中で出た意見を未来構想の、今回、概要版ということでお配りさせていただきましたけども、そこに反映させていただいてるということです。

○委員 これを見ると、ある程度の成果が見られてるみたいなので、例えばこ

う1回だけじゃなくて、シリーズ化とかにして、そうするとこういうのに参加してみたら面白かったよ、とか、そういう意味で1回だけじゃなくて何回かこう続けてやっていくとかそういう予定とかはない。

○事務局 はい、この未来構想の策定自体はもう終了してしまいましたので、未来構想のワークショップという形では、これからは開催するという予定はないんですが、一つのテーマに対して、複数回、今回のワークショップについては同じメンバーで複数回続けて実施していただきましたので、そういった手法は今後も、いろんなテーマ、市民参加、市民の意見を反映させるっていう中では取れるのかなとは考えています。

○委員 ありがとうございます。

○座長 はい、他にいかがでしょうか。だんだん残り時間も押してきているということもありますので、事務局が3ページで言いますと、参加のハードルを下げるということで。それよりもあれですね、無作為抽出による委員等の候補者名簿の活用についてというのが事務局、15ページで3番目に出ておりますが、今回お2人、無作為抽出で選ばれた市民の方がいらっしゃるわけですが、参加にあたりハードルになったことってありましたでしょうか。そこら辺、すごい個人的な率直な意見でよろしければお聞かせいただければ。こうしたらもっとよかったんじゃないみたいな部分でございますか。

○委員 私が市民で選ばれたのは、知ったような感じなんですけど、別に、あれですかね、そんなに私はハードルはなかったんですけど。結局、応募したところで私は当選しないだろうなと思ってたので、そういう感じでしたので、あんまりそのハードル、この資料に書いてある交通面がどうこうとか、気持ちがどうこうとか、別にそんなのは私には特にはなかったんですけど、当選しないだろうと軽い気持ちでやったら、まさかこういうふうに意見言えるようなところに来ちゃったもんで、そのような感じなんで、あんまり参考にならないかなと思いますけど。

ちょっと前に戻っちゃうかもしれないですけど、20代40代の方が例えば、このわからないっていう回答とか、市に対する意見があんまり伝わってるかどうかっていうのは、例えばこれ今市民が20代から40代多いって言ってましたけど、もともと茨城のつくば市の人であるのかっていうのも私は重要なかなともちょっと思ってます、つくば市でなく、自分が例えば柏に住んでたとか、東京都に住んでますっていう人は、結局そのうちだんだん、子どもたちの手が離れれば、前いたところに戻ったりするとなるとやっぱりつくば市は、結局どうでもいいのかなと、何年かであれば別にどうでもいいのかなと思ってるのかなっていうところもあって、であれば、もうちょっと無作為って言うても、もうちょっとその地域に限定して、またそっから無作為でもいいと思うんですよね、正直。20代40代が参加少ないのであれば、無理やりにでも20代40代だけの会を開いてみるとかがいいのかなあとは私の方は思います。はい。

○座長 ありがとうございます。どうぞ、先に、先に伺うんですが。

○委員 私にとってのハードルは、この無作為でまず選ばれた時に、私もまさか自分が選ばれるとは思わなくて、でもまあせっかくの機会だから、やっぱり普段とは会えないような人たちと会えるし、それにやっぱり、つくば市の市民なので、自分の意見は言うだけじゃなくて他の人たちの意見も聞いてみたいっていうので応募しました。ハードルはやっぱり、仕事を休まないと来れないということになると、その時の開催される日にその仕事が立て込んでるとか、やっぱりどうしても今日は1時間だけ有給を取ったんですけど、お休み取れるかどうかっていうところが変わってくるので、もっと早い時間の方が参加しやすいって方もおられると思うんですが、例えば20代から40代のお仕事持ってる方が参加したい、ターゲットにするならもう少し遅い時間にするとか、逆に子育て世代とかだったらそのお子さんが小学校だの幼稚園だのに行ってる時間をターゲットにするとか、本当は全世代がまじってる

のがいいんですけども、より多くの人に参加してもらうためにはある程度その、その人をグループ化して、参加しやすい人たちの参加しやすい時間というふうにするのはどうかなとちょっと思います。

○座長 そうですね、違う年齢の方が一堂に集まって議論するメリットもありますが、そうするとやっぱり、年齢層に偏りがどうしても出てきちゃうっていうのと、ターゲット層の、今おっしゃったように子育て世代でしたら学校の時間帯にやって、そこで拾ってきて、いろんな年齢層からってなりますよね。ありがとうございます。

若い世代の代表。

○委員 そうですね、私は結構今時間自由に暮らしてるので、あんまり時間に関してはコメントしづらいんですけど、そうですね、市民参加をそもそもすることのハードル、ここに書かれてるハードルを私が想像すると、式の進行なのかなっていうのを、いろんな方の感想を読んで思いました。私はもともとベンチャー出身なので、会議と言えばもう、プログラミングをした後にザーッととりあえず集まってホワイトボードに議題をダーッと書いて、とりあえずその集まった人たちでウワッと会議をするっていうのが会議で、ただ筑波大入ってみると、つくば市役所さんと同じように式次第があって、事前に読んでおく資料があって、年代も上の方から下の方まで全部そろってやる。若者の力でやってる会議と、皆さん全年齢に向けた会議って実は違うもので、そこを違うものに参加するってなったときに、やっぱりすごいハードルがあると感じる人はいると思います。はい。

○座長 はい、ありがとうございます。その他の方でいかがでしょうか。はい。

○委員 やはり先ほどのお話にあったターゲットを絞るという観点から見ると、来て顔を合わせて意見を言った方が良い方もいれば、本当に今、QRコードで読み込んでアンケートをやってとか、Zoomでやるとか、そういった行かなくても意見が言える方がハードルが低いという方もいらっしゃるんで、

いろんな手法っていうのをこれからも。今見るとやっぱり出席する方に重きが置いてるような気がするんですけど、むしろ出席しなくてもいいような手法をどんどん取り入れていくと、いろんな世代やいろんな方の意見が聞けるんじゃないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 えっと、そうですね、まず初めに市政に関する参加できていると感じてるかアンケートがあったと思うんですけど、やっぱりこれも何て言うのかな、その機会が与えられてることを知らないっていうところに原因があると思うので、そういう文脈でいうと、この無作為抽出っていうのはもっと推進されていいんじゃないかなと私としては思ってるんですね。そこで例えば私弁護士なので、裁判員裁判という制度が10年ほど前に導入されて、これも無作為抽出なんですよね。みんなにわーっと案内文を送って、駄目な人は駄目って言ってください、来れる人は来てくださいという形でやっていて、そもそも、もうそれで議論になるのかっていうような懸念も当初なくはなかったんですけども、全然そんなことはなくて、むしろしっかりとした議論、法廷でもしっかりと質問したりとか、そういう形で振る舞うと。で、参加率に関して、現時点でおそらく2、3割の方はちゃんと来てくれて、もちろん抽選でそこから絞られちゃいますけど、やってくれているということなので、やはり自分からは積極的には行かないけど、求められればちゃんと言うよと言いたいことあるよっていう人は、かなりの数いるはずだと私は思ってるんですね。ましてや、裁判なんて全然関係ないことですけども、この市政っていうのは、自分たちの生活に直結することでもありますので。なので、もっともっと活用していければいいのかなと。あと、やはりそうした時に、無作為で全部やってくるとなると、やはりある程度のフィルタリングっていうのはどうしても必要だと思っていて、その裁判員のケースでも、やはり、どうしても思想に偏りがあったりとか、議論がそもそもできないというような

方に関しては、もうその方はちょっと参加しないでいただくってような手続き的な制度も取られたりするんで、そういう配慮は必要かもしれないですけど、無作為抽出をもっと推進してもいいのかなと。で、あとせっかくこれ名簿を用意されてるので、あと、興味関心とかも聴取されてるんであれば、もっと別の手続きに使ってもいいのかなと。例えばパブコメとかでも、関連するものに関しては、こんなの今やってるから意見あったらどうぞとか、多分全員市民に送るわけにはいかないと思うんですけど、せっかくそうやって興味関心が持ってもらってるので、その1年間に関しては、かなりこちらからプッシュして、情報をプッシュしてですね。こんなことやってますけど、意見あったらどうぞと。特に登録してる方とかは相当、やはり関心がある方だと思うので、もっと有効に活用できないかなというの、ちょっと思っています。

○座長　そうですね。事務局の説明ですと、ファーストチョイスとして利用されてなかったけど、この会議を初めてファーストチョイスとして使ったということでございますから、もっともっと他のつくば市の審議会とか、委員会等で、積極的に活用することを、この委員会として提言するっていうのは、一つは具体的なこととしているのかなと思いました。他にございますか。はい、ではありがとうございます。ただいま皆様からいただいた内容を踏まえて、第3回では、課題への対応についてと、つくば市らしい市民参加の形、将来の姿について御協議いただく予定でございます。

今日、いろいろ御意見いただいたものを踏まえて、事務局で取りまとめたものに対して、さらに御意見いただくということを想定しております。何か第3回の議事について御意見、御要望ございますか。よろしいですかね、はい。

それでは、以上で本日予定しておりました議事はすべて終了しました。最後にその他として事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

○事務局 はい、では事務局の方から第3回のスケジュールということで、連絡させていただきたいと思います。第3回懇談会ですが、事前にメールでもお送りさせていただいておりますけれども、12月18日の金曜日、時間は2時から4時まで、場所はコミュニティ棟1階会議室3、この隣の部屋になります。そちらで予定しております。正式な開催案内につきましては、改めて郵便にて送付させていただきます。また、第4回の会議につきましては年明けの1月または2月での開催を検討しております。候補日が決まり次第、皆様にまた日程調整のメール、あと手紙ですね。こちら送付させていただきますので、回答の御協力をお願いいたします。事務局からの御連絡は以上です。

○座長 はい、ありがとうございました。今の事務局からの説明について何か御質問、御意見ございますか。よろしいですね、はい。それでは本日予定しておりました案件をすべて終了いたしました。これで本日の行政経営懇談会を閉会とさせていただきます。御協力皆さんありがとうございました。

○事務局 すみません。連絡事項もう1点ございまして、よろしいでしょうか。委員の方から、前回第1回の時に都市のスプロール化ということで話題に挙がっていたので、それに関連する書物の御紹介がありましたので、事務局の方でそちらの御案内を用意しておりますので、もし御興味ある方いらっしゃいましたらお声がけください。お渡しいたします。以上です。

《終了》

第 2 回つくば市行政経営懇談会会議要旨

議事（1）令和元年度（2019 年度）つくば市市民参加取組状況報告について

1. 資料 1 の内容に関する質問

	意 見	回 答
1	P 3 市民参加の主な取組の実施件数等について 市民参加の取組を実施した事業数は 64 件とあるが、P 4 のグラフ 3 の延べ件数と合わない。どのような計算になっているか。	◇事務局 64 件は取組を実施した事業の数であり、P 4 のグラフ 3、4 は 64 の各事業の中で実施された取組の件数である。
2	P 3 市民参加の主な取組の実施件数等について 出前講座は市の職員が市民に説明をする取組だと思うが、それも市民参加の取組になるのか。	◇事務局 市民が市に依頼をし、市の職員が事業等の説明を行うという点で、「共有、理解」に深く関わる市民参加の手法であるととらえている。
3	P 3 市民参加の主な取組の実施件数等について グラフ 1 に「その他」にはどのような取組が含まれるのか。	◇事務局 企画経営課で実施した未来構想等キャラバンという意見交換会や都市計画課で実施した市の都市計画を学ぶバスツアー等が含まれている。
4	P 5 パブリックコメント手続きの実施について パブリックコメントの 13 件への意見提出というのは、市で 13 の項目に分けて、それぞれで提出いただいているものなのか。	◇事務局 パブリックコメントは、計画等ごとに計画を担当している部署が実施する時期を決めて、意見を募集している。

2. 効果的であると考えられること

	分 野	意 見
1	① 情報の積極的な発信	指針等も策定され、情報の開示も良くなっていると思う。実際に参加する、しないは別として、体制は整っていると感じる。
2	① 情報の積極的な発信	市としてはとても頑張っていて、いろいろな人に市政参加を求めているような行動をしていると思う。
3	① 情報の積極的な反映	「市民参加」という項目でホームページがまとめられており、情報提供がされているという印象を受けた。 審議会等の市民委員についても、ほぼ可能なものは入れられていると思う。また、参加ができない場合もその理由が示されている。
4	② 参加しやすい環境づくり	いろいろな手法を用いている。以前はなかった手法もあるのでいいと思う。

5	②参加しやすい環境づくり	125人の意見を拾ったということは大きいと思う。意見交換等に参加するには時間が合わない、大勢の前では意見が言えないという人もいると思うので、ある程度の期間の中で自分の考えを市に伝える手段があることはとてもいいことだと思う。
6	②参加しやすい環境づくり	電子申請による意見提出が多かったことに驚く。より幅広い層、若い人たちも自分の意見を提出できるようになったのではないかと思う。
7	③市民意見の積極的な反映	実際に会議に参加した市民の手ごたえや感想、今後の展開を考えてもらう機会を作ったことについて、貴重な意見がたくさんあったのではないかと、思う。参加した人に振返りをさせていただく機会はこれからも続けてほしい。

3. 改善が必要であると考えられること

	分野	意見
1	①情報の積極的な発信	関心がない、あるいは関心がないとは言わないけれど、そこまで積極的に情報を探しに行かないという人には届いていないと思う。
2	①情報の積極的な発信	興味がないと目につかない。どれだけこちらから情報を出しても、相手を取る意思がなければ、絶対には取らないと思う。
3	①情報の積極的な発信	これだけいろいろな取組を行っていても、やっていることが自分には伝わってこないということが率直な意見。
4	①情報の積極的な発信	せっかく行われている取組を知られていないということは問題だと思う。
5	①情報の積極的な発信	若い世代の注目をどのように集めていくかということは、今後検討していくべきことの一つなのかなと考える。
6	①情報の積極的な発信 ②参加しやすい環境づくり	P8のグラフ7にもあるように、地区で応募者数が異なっており、市の中心部と周辺部とでは情報格差があると言えると思う。
7	②参加しやすい環境づくり	30歳代から40歳代で勤務している市民は忙しく、参加する時間は限られる。若い世代に意見を求めるのであれば、教育、子育て、親の介護が関心のあるテーマではないか。
8	②参加しやすい環境づくり	審議会等の市民委員の応募者数については、履歴書や小論文の提出、面接等、ハードルが高いと思う。相当時間がある人でなければ、なかなか応募しないと思う。
9	②参加しやすい環境づくり	審議会等については、専門性が高いような内容が多いので、それに馴染んでいなければ、理解がなかなか難しい。
10	③市民意見の積極的な反映	私も何度か意見を提出したことがあるが、意見に対する回答が「検討します」や「今回の計画の内容と異なるため検討しません」というように冷たかった。

議事（２）つくば市市民参加推進に関する取組の課題について

1. 自治基本条例ワークショップについて（委員資料提供）

	説明内容
1	<p>つくば市自治基本条例の策定を検討するワーキングチームにいた際に、市民の意見を集めたい、というときがあった。今から10年ぐらい前。どうやって参加者を集めるか悩んで、何をやったかという、テクノパーク桜のお祭りのプログラムに自治基本条例のワークショップを開いた。お祭りで、今からワークショップやります、参加者にボックスティッシュ1箱差し上げますという形で参加を呼びかけたところ、参加予定人数を大幅に超えた。</p> <p>ハードルが高い、わざわざ行くのも、どうしても仕事があるとなかなか行けない、そういう場合、市の方から地域のイベントに参加して、そこにいる人の意見を聞くという手法があってもいいのではないか。この資料は、いかにハードルを下げるかという一つの例として持ってきた。</p>

2. 資料2の内容に関する質問

	意見	回答
1	<p>P15 無作為抽出による委員等候補者名簿の活用について 候補者100人から1人選ぶときには具体的にどのようなプロセスで選任するのか。</p>	<p>◇事務局 候補者名簿の上から順に連絡を取り、同意いただいた方を任命又は選任している。</p>
2	<p>1の回答に対して お声がけして、ちょっとこれは無理じゃないかというような場合に、こちらから断るということはあり得るのか。</p>	<p>◇事務局 実施回数は少ないが、これまでにお断りした事例はない。</p>
3	<p>P16 市民参加に関するアンケートの実施結果 調査対象である「つくば市未来構想ワークショップ参加者」について、このワークショップは具体的にどういったことを行ったのか。</p>	<p>◇事務局 未来構想は市の最上位計画であり、H30年とR1年度にかけて作成した。ワークショップはH30年度に実施した。公募による参加者に市の現状を把握していただき、将来つくば市はこうなったらいいということを思い描いていただいて、実現のためにどういった障害が今あるかとか等を、話し合っていた。その中で出た意見を未来構想に反映した。</p>
4	<p>3の回答に対して シリーズ化すると、こういうことに参加してみたら面白かったよ、と話題にできそうだが、1回だけではなく、何回か続ける予定はあるか。</p>	<p>◇事務局 未来構想の策定自体は終了したため、未来構想のワークショップという形で開催するという予定はないが、このワークショップは同じメンバーで、</p>

	複数回続けて実施した。そういった手法は、今後も様々なテーマで実施できると考えている。
--	--

3. 令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会で協議する「課題」について

	分野	意見
1	①情報の積極的な発信	新聞や回覧板などの印刷物であれば、読みたくなくても目に飛び込んでくる情報があったと思う。デジタル化すると、自分で探しに行けば情報があるが、意識しないと目に飛び込んでこない。特に若い人はあまり新聞を取らない。今までとは違う形で情報を提示していくことが必要。
2	③市民意見の積極的な反映	<p>市政に参加できる機会が与えられていることを知らないというところに原因があると思う。そういう文脈でいうと、無作為抽出はもっと推進されていいと思う。裁判員裁判も無作為抽出だが、自分からは積極的には行かないけれど、求められれば言う、と言いたいことがあるという人は、かなりの数いるはずだと思う。ましてや、裁判なんて全然関係ないことだが、市政は自分たちの生活に直結することでもあるので、もっと活用していければいい。</p> <p>無作為で全部やるとなると、ある程度のフィルタリングはどうしても必要だと思うが、無作為抽出をもっと推進してもいいのかなと。</p>
3	③市民意見の積極的な反映	市民参加には市民が来ることを待っているような、待ちの姿勢のイメージを受ける。各地区に窓口センターもあるが、人事異動で人が変わるとコミュニケーションが取れていない。
4	④その他	市民意識調査で、市政に参加できる環境が整っているかわからないと答えた20歳代から40歳代までの人の割合が高いということ、市に伝えたい意見がないという回答割合が上位という結果がまさにそのものの問題だと思う。「わからない」というのは、市の組織や人間など、市そのものがわからないということと、伝えたい意見や自分の気持ちがわからないということがあると思う。普段住んでいて、不便に思うことなどはあると思うが、それを言語化できていない。
5	④その他	20代、40代の方のわからないという回答や、市に対する意見がないということについて、市の人口は20代から40代が多いと言っていたが、もともとつくば市の人であるのかも重要かと思う。例えば柏や東京都に住んでいた人が結局前に住んでいたところに戻るとなると、何年かしか住まないつくば市はどうでもいいと思っているのかなというところもある。

4. 市民参加に関するアンケートの実施結果について

	分野	意見
1	②参加しやすい環境づくり	自分は無作為抽出で選ばれたが、名簿への登録に同意したところで当選しないだろうと思っていたので、アンケート回答結果のような参加へのハードルは特に感じていなかった。
2	②参加しやすい環境づくり	仕事を休まないと出席できないということは、自分にとってはハードルになる。早い時間の方が参加しやすい人いると思うが。
3	②参加しやすい環境づくり	市民参加をすることのハードルを想像すると、式の進行かと思う。私はベンチャー出身なので、会議と言えば、プログラミングをした後にとりあえず集まってホワイトボードに議題を書いて、集まった人たちで会議をする。ただ、大学や市の会議は式次第があり、事前資料があり、年代も上から下まで揃って行く。若者の力で行う会議と全年齢に向けた会議は違うもの。そこに参加するとなったとき、ハードルを感じる人はいると思う。
4	②参加しやすい環境づくり	ターゲットを絞るという観点から見ると、来て顔を合わせて意見を言った方が良い方もいれば、QRコードを読み込んでアンケート回答とか、Zoom 会議とか、顔を合わさずに意見を言える方が、ハードルが低いという人もいる。

5. 課題への対応案

	分野	対策案
1	①情報の積極的な発信	チラシであれば、人が多く集まる図書館等に置くことも一つの手かと思う。 また、市内大学の学生に知恵を出してもらい、一緒に宣伝するというのも面白いのではないかな。
2	①情報の積極的な発信	様々な優先課題がある中でトップページに「市民委員募集しています」、「市民参加やっています」とできないことはわかるが、何らかの方法でわかりやすく、特に若い世代にアピールできるようなやり方を考えられるといいのでは。
3	①情報の積極的な発信	周辺地区では区長を中心に活動しているため、こういった会議の内容について、区長たちを集めて情報共有するようなことも大切になってくるのではないかなと思う。各地区で区長会長をはじめ、参加する市民が少しずつ増えていくことでということ。
4	①情報の積極的な発信 ②参加しやすい環境づくり	パブリックコメントで提出された意見の数や市民委員の応募者数から、今の市民がどういうことに関心を持っているかということがわかると思う。そういうところにより多くの人が参加できるような形の取組を続けながら、いろいろな課題にシフトしていくという取組も有効かなと思う。

5	①情報の積極的な発信 ③市民意見の積極的な反映	自分の住んでいる地域がより良くなっていくことを実感すれば興味を持ち、意見を言うかもしれない。
6	①情報の積極的な発信 ③市民意見の積極的な反映	せっかく名簿を用意していて、興味関心も聴いているのであれば、別の手続きに使ってもいいのかなど。例えばパブコメとかでも、関連するものに関しては今こういうことをやっているから、意見あったらどうぞとか、市民全員に送るわけにはいかないと思うが、せっかく興味関心を持ってもらっているので、その期間に関しては、こちらから情報をプッシュして、もっと有効に活用できないかなと思う。
7	②参加しやすい環境づくり	今は出席する方に重きを置いているような気がするが。むしろ出席しなくてもいいような手法をどんどん取り入れていくと、いろいろな世代やいろいろな人の意見を聞けるのではないかな。
8	②参加しやすい環境づくり	若い世代の参加について、中学校や高校などで審議会等の経験をしてもらうなどの体験をさせない限り、広がっていかないと思う。
9	②参加しやすい環境づくり	適切な方法であるかどうかかわからないが、意見を出した人に何等かの報酬を与えれば、意見が多く出てくる可能性があるのでは。地域ポイントや地域特産品を提供することはできないかな。
10	②参加しやすい環境づくり	ポイント制について、現金を配るというわけにはいかないと思うが、パブリックコメント1つ意見を言うとスタンプ1個のような、市民参加の可視化のようなものがあるのかなと思った。いや、それはいけない、税金を使うのだからという意見も当然あると思う。
11	②参加しやすい環境づくり	アメリカなどのコミュニティで見ると、地域のために良いことした人を取り上げて表彰するような取り組みをしているケースを目にしたことがある。人は金銭的な経済的なメリットで動くこともあるが、名誉ややりがいのようなもので動く面もあるため、そういうインセンティブの与え方はあるのではないかな。
12	②参加しやすい環境づくり	20歳代から40歳代の仕事を持っている人をターゲットにするならば、遅い時間にするとか、子育て世代をターゲットにするのであれば、子どもが学校や幼稚園に行っている時間にするとか。本当は全世代参加がいいが、より多くの人に参加してもらうため、ある程度グループ化して参加しやすい人たちの参加しやすい時間を設定するのはどうか。

13	②参加しやすい環境づくり	無作為と言っても、地域を限定して、そこから無作為でもいいと思う。 また、20歳代から40歳代を対象とした会を開いてみるのもいいと思う。
14	②参加しやすい環境づくり	専門的な内容の会議でも、市民目線で取組んでもらえるとわかりやすくなるのではないか。
15	②参加しやすい環境づくり	自分の業務の行動計画の中で、どの時期にどういうことをやるということを落とし込んで、それを優先的に取組めば、その地域の実情もわかるし、地域の人との交流、コミュニケーションも進み、色々な意見が出てくるのではないか。
16	③市民意見の積極的な反映	応募者数、参加者数を増やす対策として、市内企業から代表として1人に参加をしてもらおうということもいいと思う。
17	③市民意見の積極的な反映	20歳代から40歳代の人から意見を集めるには学校や地元企業に適切な代表者を選出してもらい、会合、意見提出を依頼すると効果的かもしれない。
18	③市民意見の積極的な反映	書いてよかったという気持ちにさせる回答をしてもらえると、行政の人は自分の意見も読んで考えてくれているという話題にもなり、パブリックコメントの制度も広まるのではないか。
19	④その他	市内企業等についても、就業時間内に市民委員として活動する人を快く出せる、という意識改革も大事だと思う。

令和元年度（2019年度）パブリックコメント手続き 実施結果報告書主な回答内容

つくば市公式ホームページ

パブリックコメント手続き「令和元年度の案件一覧」



1 「つくば市自殺対策計画（案）」 保健福祉部健康増進課

意見概要	意見数	市の考え方
抑うつ状態のひとに、状況にあった相談先を判断することは困難です。相談を必要とする本人たちへ届けるためにはまず最も目立つところに一箇所だけ、そこへ相談すればどうにかなるかと思わせる連絡先を載せることが、効果が高いのではないかと思います。また、メール、メールフォーム、さらに電話折返しなどの選択肢があれば、と思います。	1件	貴重なご意見ありがとうございます。ご意見を参考に、相談者に寄り添った相談しやすい窓口の体制づくり等、より良い支援の検討を進めてまいります。

2 「第2期つくば市子ども・子育て支援プラン（案）」 こども部こども政策課

意見概要	意見数	市の考え方
保育所・幼稚園・認定こども園だけでなく、認可外保育施設など、小規模な民間施設に対する整備やサポートをしてほしい。	1件	認可外保育施設への対応については、国の動向を注視しながら、引き続き検討していきます。

3 「つくば市公立保育所の施設改善に関する基本方針（案）」 こども部こども政策課

意見概要	意見数	市の考え方
安易な民間委託を行わず、建て替える場合、場所についても法律にあるように児童施設としてふさわしい環境を選定していただきたい。	1件	施設ごとの整備計画を策定する過程で検討していきます。

4 「第5次つくば市きれいなまちづくり行動計画（案）」 生活環境部環境保全課

意見概要	意見数	市の考え方
つくば市でも住民の高齢化が進み、独居老人が増えている。 独居老人世帯の場合に、家庭ごみの戸別収集を可能にしてほしい。	1件	御指摘の内容につきましては、「つくば市一般廃棄物処理基本計画」により、検討することとしております。 本計画は、市・市民・事業者の協働により、きれいな生活環境が保持されたまちをつくるための計画ですので、御意見は参考とさせていただき、今後とも良好な住環境の確保に努めてまいります。

5 「つくば市教育大綱（案）」 総務部総務課

意見概要	意見数	市の考え方
Iで掲げている最上位目標が当たり前の内容なので、Iを無くしてIIをIとして据えてほしい。	1件	最上位目標は当たり前かもしれませんが、とても大切な概念であるため、あえて掲げています。 また、最上位目標を体現するための大きな手段がIIで示している考え方の転換になります。

6 「つくば市未来構想改定（案）」 政策イノベーション部企画経営課

意見概要	意見数	市の考え方
「自然災害の頻度が高い地域には住宅は建てさせない」「安全地域へのコンパクトシティの推進」を表明すべきである。	1件	土地利用構想では土地利用の基本的な方向性を示すものであり、危険区域や災害等については、個別計画で詳細を定めています。

7 「第2期つくば市戦略プラン（案）」 政策イノベーション部企画経営課

意見概要	意見数	市の考え方
まちづくりの理念「つながりを力に未来をつくる」や、「つくばがつながるための視点」に関連して、全般的に「つながり」に直結する指標が必要であると感じるが、設定されていないように見受けられる。	1件	「つながる」ということを数値で表すことが難しいことや、「つながる」ことは手段であることから直接的な指標として用いていませんが、施策の基本的な考え方として共有を行っています。

8 「第2次つくば市鳥獣被害防止計画（案）」 生活環境部環境保全課

意見概要	意見数	市の考え方
P. 2: 1. 対象鳥獣の種類 イノシシ・カラス類が対象鳥獣となっていますが、アライグマを追加する予定はないのでしょうか。県内で増加しているアライグマは特定外来生物に指定されている事、農作物を食害する事、生態系に大きな影響を及ぼす事、人畜共通感染の強力な媒介者となりえる事などから、分布拡大を抑止するために狩猟による個体数管理が至急必要だと考えられます。	1件	アライグマについては、現在、第2次茨城県アライグマ防除実施計画に基づき捕獲を実施しています。県では、令和3年度からの次期計画の策定作業に入っていることから、今後はその動向を踏まえ、県などの関係機関、市内猟友会と捕獲体制や処分方法などを明確にした上で対象とするかを検討します。

9 「つくば市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」 生活環境部環境政策課

意見概要	意見数	市の考え方
交通の低炭素化には、EV充電設備や水素燃料の確保と供給が必要であり、課題でもある。	1件	つくば市では、市域のEV充電設備の設置状況を考慮して、EV充電設備を設置しています。また、水素燃料の供給については市内で移動式水素ステーションを稼働させております。これらのエネルギーの供給に関する課題については、頂戴した御意見を参考にして引き続き情勢を考慮して対応します。

10 「つくば市環境基本計画（案）」 生活環境部環境政策課

意見概要	意見数	市の考え方
森林の維持保全について行政が支援するだけでは森林の消失は止める拘束力がないため、条例等による開発規制が必要ではないか。	1件	条例による規制は、多面的な評価が必要であり、条例の必要性を考慮した上で検討する必要があるため、本計画では記載しません。

11 「つくば市一般廃棄物処理基本計画（案）」 生活環境部環境衛生課

意見概要	意見数	市の考え方
つくば市は緑豊かな市であり、どうしても剪定枝や草が出る。野焼きが禁止のため、燃えるごみで出している。リサイクルする仕組みに期待する。	1件	剪定枝及び刈草のリサイクルについては、ご指摘のとおり、つくば市内では発生量も多く、課題としてとらえております。 一般廃棄物処理基本計画の中でも以前より、リサイクル方法について検討することとしており、仕組みづくりについて検討を継続しております。 引き続きリサイクル方法を含め研究検討を進めてまいります。

12 「つくば市学校等適正配置計画（指針）改訂（案）」 教育局学務課

意見概要	意見数	市の考え方
選択学区制度の運用を続けて良いのか議論すべき	1件	今後の参考とさせていただきます。

13 「つくば中心市街地まちづくり戦略（つくば駅周辺基本方針）（案）」

学園地区中心市街地振興室

意見概要	意見数	市の考え方
官民連携のまちづくりの官民連携の「民」は「市民」を指すのか。文脈からは民間事業者を指しているように察するが、疑う余地なくこれからは市民の強い関わりが重要になるのではないか。	1件	「5. 戦略の推進に向けた市の考え」において、市民とのパートナーシップについて、市民と行政がパートナーとして協働することが重要であるという市の認識について記述しておりますが、今後プロジェクトの各段階に応じて多くの市民が主体的に参画できる機会を設けることを検討していきます。

市民委員候補者名簿への登録について

1 / 2

◇ 審議会とは

市の重要な計画や施策の検討、決定等に当たり、広く意見を求めるために設置する会議のことです。
協議の結果は、提言や答申などの形で市政に反映されます。

◇ 案内が届いたから必ず登録しなければいけないのか

必ず登録しなければならないものではありません。
「市民委員候補者名簿」への登録に同意いただける場合は、同封しました「委員等候補者名簿への登録同意書」に必要事項を記入し、ご返信ください。

◇ 候補者名簿に登録されたら、必ず就任するようになるのか

審議会等を担当する部署から、会議の内容などの説明を聞いた上で、就任を断ることができます。
なお、委員の任期満了や欠員の状況に応じて、就任依頼をさせていただくため、候補者名簿に登録されたとしても、就任の依頼がない場合があります。

◇ 専門的知識がなくても委員になれるのか

専門的な知識や経験等は必要ありません。
市民委員として、つくば市で生活する市民の視点から御意見をいただきたいと考えております。
なお、会議等は全て日本語で行われます。

◇ 名簿にはいつまで登録されるのか

「市民委員候補者名簿」登録期間は2年間です。
(2020年6月1日から2022年5月31日まで)

◇ 参加したい会議がある場合、自分から市民委員に応募できるのか

「市民委員候補者名簿」に登録中であっても、広報紙やホームページ等で公募を行っている審議会等の市民委員に応募することが可能です。

◇ 会議の時間や回数、報酬、任期などは決まっているのか

各審議会等によって異なります。
なお、「市民委員候補者名簿」への登録後、就任の依頼がある場合は、審議会を担当する部署から説明があります。

◇ 市民委員の名前は公開されるのか

「市民委員候補者名簿」に登録されただけでは、氏名は公開されません。
ただし、市民委員として審議会等に参加していただいた場合は、会議録等に氏名が記載され、ホームページ等で公開されることがあります。

委員等候補者名簿への登録同意書

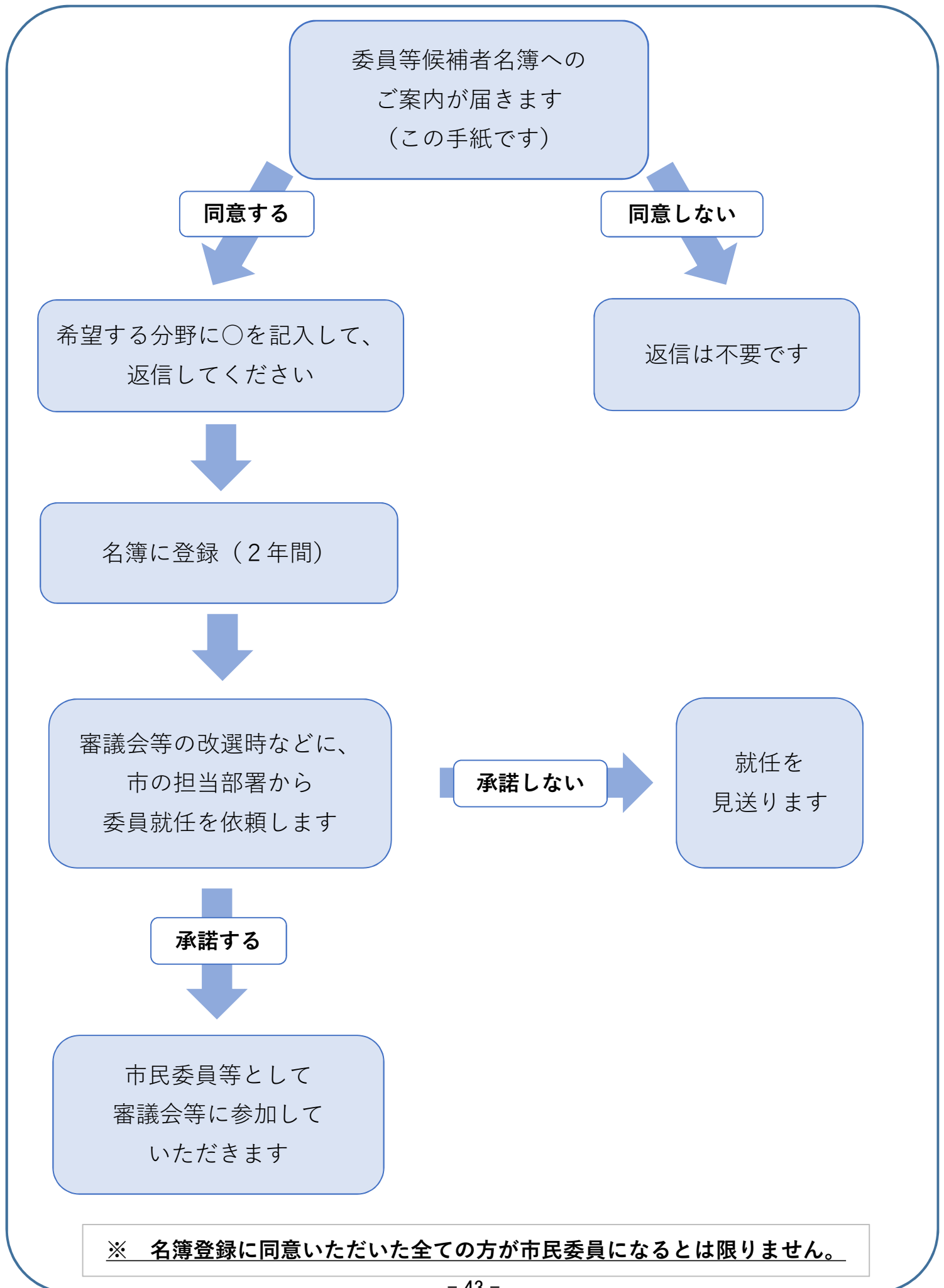
1 氏名等をご記入ください。

ふりがな		性 別	生年月日
氏 名		男 ・ 女	昭和・平成 年 月 日
住 所	〒 - つくば市		
連 絡 先	自 宅	- -	携帯電話 - -
	メールアドレス		

2 第1希望から第3希望まで○をつけてください。

分 野	主な会議の内容	第1希望	第2希望	第3希望
1 子育て、教育	子育て、教育、学校、生涯学習など			
2 健康、医療、福祉	健康、医療、高齢者・障害者福祉など			
3 文化芸術、スポーツ	文化財、文化芸術、スポーツなど			
4 環境、清掃	環境の保全など			
5 社会基盤	都市計画、交通環境、景観など			
6 産業	農業、商業、観光など			
7 総務、行政等	市政の運営、協働、男女共同参画など			
8 その他 ()				

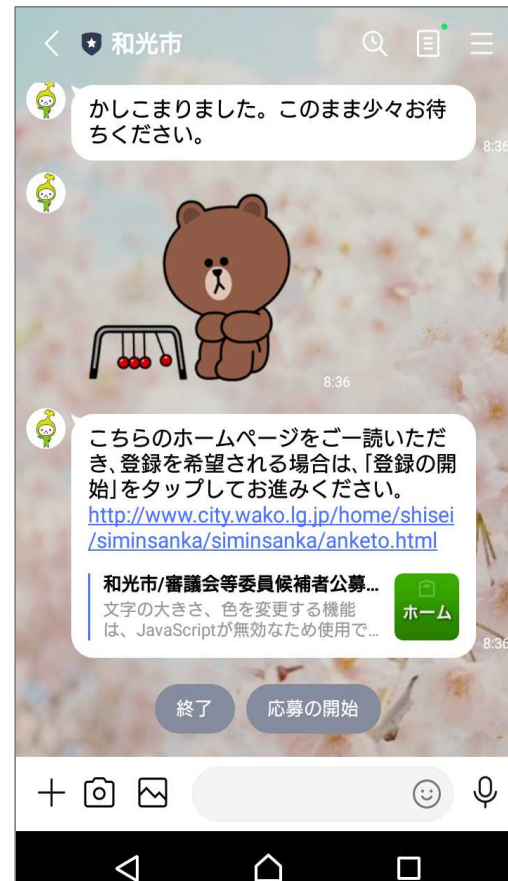
名簿登録への同意・就任依頼の流れ



市民委員の任命又は選任に無作為抽出を活用している主な自治体

	東京都国分寺市	東京都八王子市	東京都三鷹市	千葉県柏市	埼玉県和光市（事業終了）	つくば市
登録期間	2年間	2年間	2年間	2年間	2年間	2年間
希望分野の確認	希望分野確認あり	希望分野確認あり	希望分野確認あり	希望分野確認あり	希望分野確認あり	希望分野確認あり
任命等の方法	事業担当課等から候補者名簿登録者に電話等で依頼する。名簿管理課は募集人数分の候補者名簿を提供。	事業担当課等から候補者名簿登録者に電話等で依頼する。名簿管理課は募集人数分の候補者名簿を提供。	事業担当課等から候補者名簿登録者に電話等で依頼する。名簿管理課は募集人数分の候補者名簿を提供。	事業担当課等から候補者名簿登録者に電話等で依頼する。名簿管理課は募集人数分の候補者名簿を提供。	公募で応募者が集まらなかった場合の二次利用を前提として運用。年に1～2人の任命又は選任があった。	事業担当課等から候補者名簿登録者に電話等で依頼する。名簿管理課は候補者名簿を提供。
会議以外での活用	実施なし	ワークショップやイベント等の実施について情報提供。	実施なし	市民説明会やパブリックコメントの実施について、情報提供。	実施なし	実施なし
市民参加の情報提供	実施なし	候補者名簿の管理課からワークショップやイベント等の実施について周知。	実施なし ※無作為抽出にを実施する際、広報紙に参加者の声を掲載している。	事業担当課等から希望があれば、候補者名簿を提供。事業担当課等から周知。	実施なし	実施なし
任命等取消有無	事業担当課等からの報告事例なし	事業担当課等からの報告事例なし	事業担当課等からの報告事例なし	事業担当課等からの報告事例なし	なし	なし
備考	-	-	-	登録期間は4年間に延長を予定している。	無作為抽出の登録は終了。現在は市の公式LINEで市民委員の応募や情報発信を行っている。	-

(参考) 和光市公式LINEアカウント トーク画面

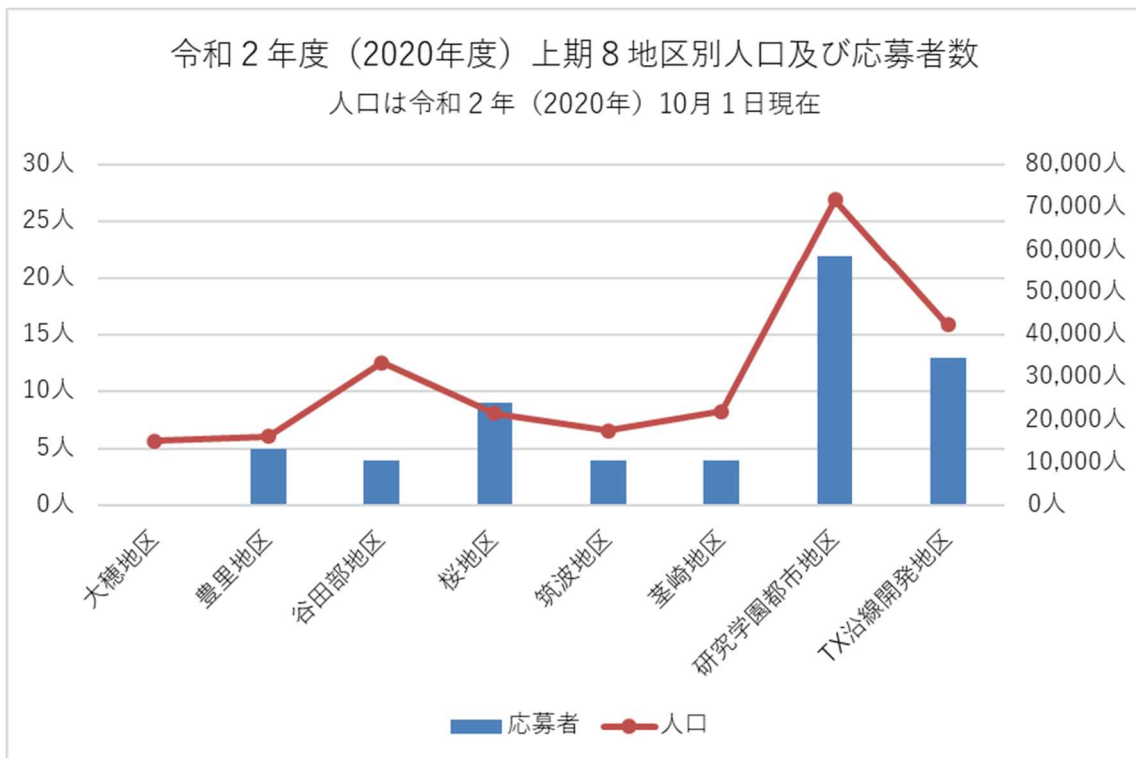
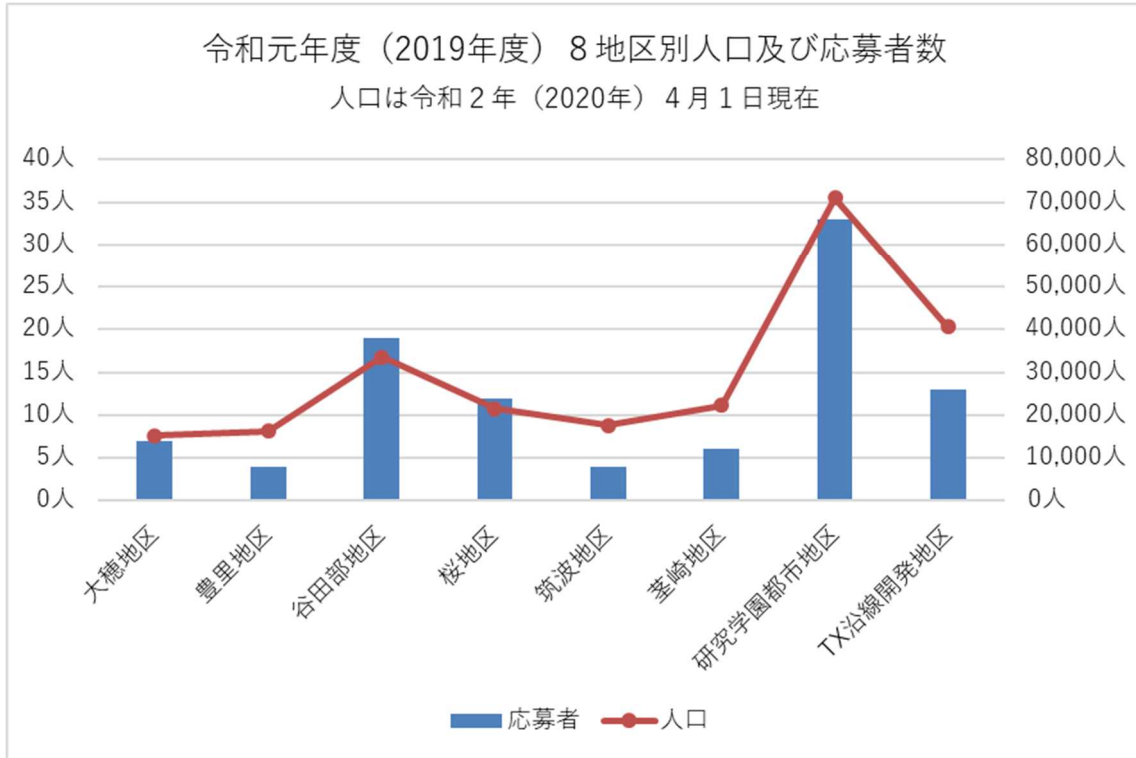


公募委員候補者の登録

説明会開催の情報等が
通知される

地区別市民委員応募状況

8 地区（旧 6 町村、研究学園都市地区、TX 沿線開発地区）別の市民委員応募状況



※研究学園都市地区と TX 沿線開発地区について

研究学園都市地区	上沢、大穂、立原、南原、花畑、西沢、旭、天王台、天久保、吾妻、竹園、千現、並木、梅園、北郷、西原、八幡台、春日、東新井、二の宮、小野川、松代、大わし、藤本、観音台、長峰、東、稻荷前、高野台、牧園、池の台、松の里、西の沢、若葉 【筑波研究学園都市建設法施行令】
TX 沿線開発地区	香取台、諏訪、陣場、かみかわ、高山、万博公園西、学園の森、研究学園、学園南、みどりの、春風台、さくらの森、流星台 【つくば市市民意識調査地区割】